

農業委員会だより

■発行人 飯山市農業委員会会長 伊澤春一
■編集 飯山市農業委員会 情報委員会

農業委員会管外視察研修会を実施

種苗・農業シートの
メーカーを視察

7月5日から6日にかけて、管外視察研修を行いました。

5日は滋賀県湖南市にある、タキイ種苗の研究農場を視察しました。



穫の手間がかからない、箱詰めしやすい、そして鮮かな色の新品種開発のため、数年か

ら10年以上もの年月をかけて商品化を目指しており、カタログに載るのはその中でも一部しかないと言明されました。

約70ヘクタールの広い敷地には附属の専門学校が併設され、全国から学びに来ている若者達が、元気で働いていました。

6日は福井県鯖江市にある農業用の防草シートを製造しているメーカーを視察しました。



とが創業以来の原点との連続し、でも病気になるに、くい、収

雑草の繁茂は、農家の大きな悩みのひとつです

北信五市農業委員研修会が開催されました

8月25日に長野市内で平成22年度北信五市農業委員研修会が開催されました。

研修会の事例発表では農業委員の坪根登美子さん（秋津・北畑）が「食の風土記」の発刊や野沢菜、キノコ、山菜などの加工所の立ち上げ、郷土食の伝承や、遊休農地を活用してソバ畑を楽しむなど、人と人とのつながりや、飯山の宝を結びつけて農業に元気を与えてきた飯山の女性達の活躍を紹介しました。

また、講演では長野農業改良普及センター所長の小須田氏が、農業技術の歩みについて話され、昭和30年代に農業試験場飯山試験地（当時）にいた松田順次さんが地元の人と協力しながら、当時は誰も考えつかなかった、育苗箱で育てた稚苗を直接植え付ける方法について研究を続け、その後の田植機の実用化に当たったの根本技術となり、やがて田植えの大幅な省力化が可能となった。その際に、飯山の蚕棚から生まれた「30cm×60cm×30cm」の規格が育苗箱の全国規格になったこと、また、北信地方で栽培の研究を重ねてきたエノキタケが、昭和32年正月に太田地区北条の8戸で初出荷を始めたことなどを紹介されました。

参加した各農業委員は、改めて農業改良に尽くしてきた先人たちの労苦に思いをさせ、今後の農業振興への取り組みに大きな励みをいただきました。

北信五市農業委



坪根登美子委員による事例発表



水稻箱育苗発祥の地記念碑（市内：常盤地区）



7月28日 遊休農地対策事業 常盤堤外地での「ソバの種まき」

みつばちとソバ花

10.9
No.184

農業に携わる市内転入者との懇談会を開催

8月10日に農業委員会の役員及び振興対策委員で、市内へ転入し農業に携わっている方々との懇談会を開催しました。

以下に懇談内容の一部を紹介します。

——飯山へ来たきっかけは
・会社を早期退職しました。景色もいいし、ずっと住みたいです。

・農業に関心をもっていました。最初は別の場所を探しましたが、飯山の風景を見てびっくりして感動したのが忘れられず、住みたくなりしました。

・古民家の情報が欲しいです。飯山は市と農協が連携している。長野県はよくやっていると思う。

・雑誌で発信しているのを見て偶然知りました。

・話を聞いていると、昔から住んでいる人から見れば普段見慣れている当たり前のことが、見方を変えると新鮮であり、自分たちも考えを改めていくのではない。



8月10日 農業に携わる転入者との懇談会

があるのでは。

——農業についての思いは

・買物が不自由。農産物の販売ルート、直売ルートが少ないのでは。こだわりの物を扱う店が少なく、限られているのでは。高く売れる販売経路の開拓をすれば有利ではないか。

・野菜の規格は本来なら、ない方がよい。流通のためだけではないか。

・農業は一人では大変。手伝ってくれる人がいないと大変で、化学肥料を使わないと、倍の手間がかかる。

・トラクターなど持っていないが、植え付け時などに借りることができれば。

・環境を壊さずにアピールできる作物をつくりたい。

・マルチなどを燃やしているがにおいや煙などが出てしまい、許されないことだ。

・何かいい方法で集めてほしい。有料だが、無料にしてほしい。

・野生鳥獣害の被害が目立つ。参加者の皆さんからの貴重なご意見や要望をふまえ、今後の農業委員会活動や市長建議につなげていきたいと思います。

あぜ道だより



農業委員 佐藤 次郎
(木島地区)

夏の日の思い出

暑い夏の日が来ると子供
の頃を思いだす。

我家は、樽川と馬曲川との合流する近くにあり、夏になると近所の友達数人で馬曲川の下流から上流に向かって、木綿針を割り箸に糸で巻きつけたヤスをもってカジカを捕りに行った。水は澄み、冷たく、小魚がたくさんいた。捕まえた小魚を焚火で焼いて食べるのが楽しみであった。

魚がなくなると、近くにある田んぼの畦に植えられていた大豆や小豆を、拾ってきた缶詰の空き缶で、茹でて食べた（すみません）。昔は、樽川の堤防も、現在のような外来種の大きな雑草もなく、川岸まで行くことができて、夏の日の夕

